

「鳥は飛び立ち、窓越しの景色は移ろっていく。どこからともなく風が吹き、姿を消した鳥の地鳴きが、かすかに耳へ届く。」

過去作と近作を合わせて展示するにあたり、学生時代から現在までの作品をあらためて辿った。

気づけば 20 年以上の歳月が流れている。その間、絵画表現は変化を重ねながらも、目の前にある風景を手がかりに描き続ける姿勢は変わらなかった。本展では、〈鳥・風・窓〉という共通するイメージを持つ作品を選んだ。飛び立つ鳥の姿、窓越しに移ろう景色、かすかに感じる風の気配。それらは目に映る光景を超え、記憶や感覚の奥にある不可視の世界へとつながっていく。描かれた時期や場所はそれぞれ異なるが、作品たちは物理的な時間や距離を越えて引き寄せられ、展示空間の中で互いに呼応する。その重なりの中から、新たな風景が立ち現れることを願う。

寺内 誠